

みなさんと日本盲導犬協会を結び会報です

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL. 045-590-1595
FAX. 045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>



盲導犬くらぶ

どんなときも 変わらない 「ちょっとひと言」を!

周りの人に
サポートを
頼みづらいな

ソーシャル
ディスタンス
ってどのくらい?

足で踏むと
消毒液が出ます

3歩前に
進みました

「誰もがハッピーな社会」へ 声かけの輪を広げよう

コロナ禍の新しい生活様式で、目の見えない、見えにくい人が困ってしまう場合があります。

でも、そんな困りごとみなさんのちょっとしたサポートがあれば解決します。

みなさんのひと言で「誰もがハッピーに過ごせる社会」を創っていきませんか? (関連コラム16ページ)

TOPICS!

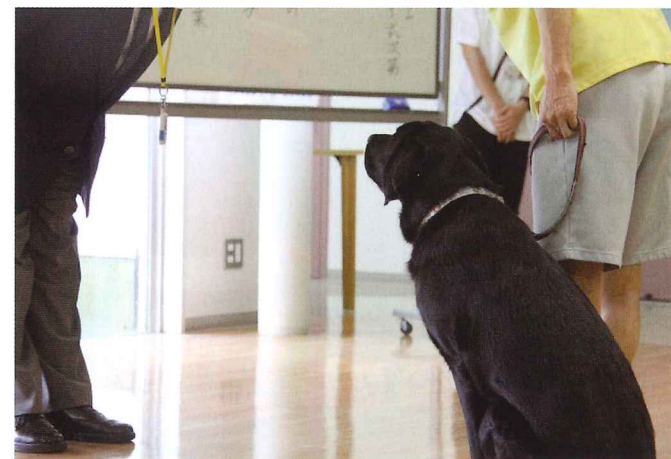
主なできごとの中から
ピックアップ

パピーと共に成長する訓練生 ～第12期パピープロジェクト修了式を終えて

昨年11月から約8か月間にわたるパピー4頭の委託期間を終えて、7月5日に島根あさひ社会復帰促進センター（浜田市）で島根あさひ盲導犬パピープロジェクト修了式が行われました。

プロジェクト開始当初は、パピーとのやりとりについて、育成を担当する訓練生（受刑者）は悩み、皆で相談し、協会職員のやり方を真似たりと、試行錯誤の連続でした。まずはパピーが安心できるように「グッドをしっかりと伝えよう」。訓練生の努力に応えるかのように、パピーたちも次第に尻尾を振るようになり、表情も穏やかになっていきました。

週末パピーはウイークエンドパピーウォーカー（WPW）



↑7月5日の修了式にて、訓練生から協会へパピーが引き渡されました。島根県浜田市の島根あさひ社会復帰促進センターにて

の家庭へ。その存在は、訓練生にとって特別なものでした。飼育日誌を通じ共に成長を報告し合い、アドバイスももらってパピーへの接し方を工夫したりもしました。「先週できなかったことができるようになって驚いた！訓練生のおかげ」というWPWからの言葉が大きな励みになりました。

協会職員がパピーを町に連れ出した際、地域の人から「毛並みがキレイ」と褒められたことを訓練生に伝えると、毎日のグルーミングや身体のケアにも、一層やりがいが出てきました。

迎えた修了式、訓練生挨拶では、「パピーたちを育てる中、訓練生間で絆が生まれ、助け支え合う存在になった。パピーたちには幸せになって欲しい」。しっかり前を見据え、自身の言葉で語るその姿に、成長の兆しを感じました。

11月には第13期プロジェクトがスタートします。改めてその意義をかみしめ、さらなる発展へ向けて力を注いでいきます。

↓先行して6月27日、島根あさひ訓練センターで地域ボランティアであるウイークエンドパピーウォーカー（WPW）4家族の修了式が行われました。WPWがマイクで話す間もパピーたちは足元でしっかり待機。みなさんの熱心なレクチャーのおかげです



日本盲導犬協会の歩み 2021.7.1～9.30

- 7月16日 第4回常任理事会
- 9月4日 盲導犬慰霊の日(神奈川・仙台・富士・広島)
- 9月15日 第6回常任理事会

↓6月30日 岡山市立鯉山小学校で学校キャラバンを開催。岡山西ライオンズクラブの協力により3日間で4校を訪問しました



↑7月28日 みやぎ生協黒松店（仙台市）で受け入れセミナー。14人の参加者はお釣りとレシートを別々に渡すなど視覚障害者への接客を体験しました



↑8月9日 富士ハーネス夏季特別イベント「職員に聞いてみよう」。犬の名前は誰が付けるの？などの質問が寄せられました



→8月7日 夏休みの自由研究で「盲導犬」を調べる子供たち向けに3つの動画をYouTubeにて配信。訓練動画は視聴回数1000回を突破しました

災害時のユーザー支援強化 ～迅速な安否確認、ヘリ救助訓練への協力

8月、西日本を中心に記録的な豪雨となり、各地で災害が発生。7月には静岡県熱海市でも土石流が起こるなど災害が続く中、協会は盲導犬ユーザーに対して「避難所までのルートを知っておく」「地域の防災訓練に盲導犬と共に参加する」など日頃から災害への備えを行うよう呼びかけています。

10年前の東日本大震災を契機に、協会は全訓練センターで一定の災害対策を整えてきました。震度5以上の地震発生、津波警報の発令、悪天候等で警戒レベル4（避難指示）以上の場合に、各地域の訓練センターが中心となって該当地区ユーザーの一人ひとりに安否確認の電話連絡を入れていきます。今後は、ユーザー自身が状況を発信できるLINEアプリや災害用伝言ダイヤルなど、複数の安否確認ツールの導入も検討しています。

被災時にはユーザーの気持ちに寄り添いながら確かな支援ができるよう、防災航空隊などとも連携していきます。



↑昨年12月、協会は島根県防災航空隊が実施した訓練に参加。視覚障害者や盲導犬を安心・安全に救助できるよう、ヘリコプターでの救助方法・器具装着の注意点などを提言



with コロナ 感染対策、職員PCR検査など万全な体制で

世界で未だ猛威をふるっている新型コロナウイルス。昨年夏、協会は、陽性者が出た場合の対応マニュアルを作成し、万が一に備えていました。

2月、ユーザーで初の陽性者が発生。協会は12日間、盲導犬を預かりました。高熱で入院したユーザーから協会へ連絡が入り、職員は飛沫防止シートを設置して感染対策を施した車でユーザー宅へ向かいました。防護服を装着し、玄関のドアノブに犬をつないでもらい、濃厚接触者の家族と

接触しないよう犬を引き取りました。訓練センターへ戻ってからは、シャワー室へ入って犬の体を洗う、防護服や使用済みタオルを捨てるなどマニュアルに沿って対応しました。ユーザーは幸いにも大事には至らず、教訓として普段から排泄やフードの準備など犬を預ける場合の備えをするようになったと言います。

協会では消毒や検温、来館者の人数制限、職員の定期的なPCR検査など万全な体制で運営を行っています。

●各センター活動報告(7月～9月)

(2021年9月30日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	1回	1回	0回
	パピーレクチャー	30回	5回	3回
	パピーウォーキング修了式	1回	1回	0回
	ユーザーフォローアップ	24回	45回	38回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	0回	3回	1回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー	6回		
	短期リハビリテーション	0回	0回	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	151回(101人)	162回(102人)	42回(126人)
	見学会・団体見学	3回	8回	4回
その他(雑誌など)	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	13回	16回	4回
	各種オンラインセミナー	5回		

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	11回
新聞	25回
WEB	113回
その他(雑誌など)	5回

主な放送・掲載	
7月1日	早稲田アカデミー「サクセス12」7.8月号 中学受験の専門雑誌で盲導犬の一生や仕事について紹介
7月1/27/22日	毎日新聞他1紙WEB4件 島根あさひパピープロジェクト第12期ウイークエンドパピーウォーカー修了式
7月11/13日	富士山新聞他1紙WEB3件 全国一斉盲導犬教室の中継や児童たちの受講の様子を紹介
7月19日	朝日新聞 コロナ禍での視覚障害者の困りごとについて、協会や盲導犬ユーザーを取材
7月22日	毎日新聞 盲導犬の受け入れ拒否について、実態調査結果やユーザーの経験談、協会のオンライン受け入れセミナーを紹介
7月22日	青森放送「RABニュースリーダー」第2回盲導犬育成支援ミニバスケットボール大会
8月15日～9月6日	読売新聞他3紙WEB9件 東京2020パラリンピック 協会ユーザーが聖火ランナーや大会ボランティアに参加
8月28日/9月6日	読売新聞他1紙WEB1件 盲導犬同伴で海外から来日するパラリンピック選手に協会が期間限定証明書を発行
7月2日～23日	REANIMAL 盲導犬の概要や協会の活動方針、理想とする社会について連載記事を掲載

*協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。



見えない、見えにくい人を地域で支える 行政と連携して新たな支援ネットワークづくりに挑戦

富士山麓にある静岡県の富士宮市役所には、視覚障害者の相談に対応する専門の職員がいます。協会施設「盲導犬の里 富士ハーネス」は富士宮市のこの特色を生かし、地域行政と連携した支援システムの運営に携わっています。見えない、見えにくい人が一人で悩みを抱え込んでしまわないよう、いつでもすぐに相談できる、地域に根ざした取り組みです。「協会だけではサポートの継続は絶対に成り立たない。全国の支援機関や担当者、当事者団体との顔の見える関係が大切」。富士ハーネス・堀江職員の奮闘をレポートします。



↑富士宮市と関連団体の専門家が連携して実施する相談会。左から、市の障がい療育支援課職員・業師子知美さん、富士宮市身体障害者福祉会で視覚障害当事者として相談員をしている前嶋桂子さん、富士ハーネス堀江智子職員、それぞれの専門性を生かして相談に対応します

地域に相談場所を 行政と共に創る 新たなサポートシステム

視覚に障害があっても、行政サービスの利用や支援機器等の活用により生活環境を整えていくことができます。そうした環境整備に必要な情報を必要な人にできるだけ早く届けるには、身近な地域の中に相談支援体制がわかりやすく整っていることがとても大切です。

富士ハーネスのある富士宮市では、障がい療育支援課に視覚障害の担当者が在籍しています。視覚障害者へ、行政サービスの種類や申請の仕方の説明はもちろん、困りごとを聞き、必要に応じて病院や自宅を訪問する

歩行訓練士とは 何をやる人？

視覚障害生活訓練等指導者とも呼ばれる視覚障害リハビリテーションに関する専門家。見えない、見えにくくて困っている人の生活全般を対象に、ときには医療従事者や介護職などの多職種と一緒に連携しながら支援します。

など、きめ細かなサポートを行っています。そこには専門的な知識と技術をもった人材が必要です。富士ハーネスの堀江智子視覚障害サポート部職員は、歩行訓練士^{*}としての専門性を生かし、市役所担当者と一緒に相談者の対応を続けてきました。このシステムは、富士宮市役所が要となって、地域の眼科医、眼鏡店、視覚障害の当事者団体、富士ハーネスなど支援団体が連携するもので、切れ目のないサポートを提供できるのが大きな特徴です。

市役所での定例相談会を 支援につなげる

これまでは、福祉課の窓口に来た視覚障害者から相談があると、その都度対応を行っていました。「相談者を待っているだけでは支援が遅れる。市庁舎内で相談会を毎月開催して積極的にアピールしていこう」と、今年3月、富士宮市主催の「見えにくい方

のための生活相談会」がスタートしました。市役所、視覚障害当事者、支援機関の3者が揃って相談に応じ、内容は多岐にわたります。

地域の眼科医から紹介されて「眼科で身体障害者手帳の取得を勧められたけど、交付されるとどんな行政サービスが受けられるのか？」と相談に来た方もいました。病院では治療が主となるため、見えにくさへのケアや福祉へつなぐための情報などが足りていないのが現状です。これには市役所職員が対応します。「一人で外出が難しくなったが外出する方法を知りたい」というケースでは、まず、白杖を使う方法や、研修を受けたガイドヘルパーと外出する同行援護サービス、盲導犬歩行があることを、当事者でもある相談員が紹介。盲導犬歩行や白杖を希望した人には、堀江職員が、盲導犬体験歩行や杖を福祉用具として申請手続きできることを伝え、白杖歩行訓練へとつなぎます。

音声図書とは？

書籍を音声にしたもので、「デイジー図書」とも。CD版やデータ化されたものを、各地域の視覚覚情報支援センター等で無料で借りることができます。

「読書ができなくなって諦めているが何か方法はあるか？」という相談には、読みたいものに合わせて活字を大きな文字にする拡大読書器やループ、音声図書^{*}を紹介。音声図書を利用すると誰かに読んでもらわなくても小説が読めて、家族友人と本の感想を語りあえる喜びを取り戻した、という人もいます。

地道に長く 地域に根づいた支援を

一度にたくさんの新しいことにチャレンジするのは大変ですから、相談会では支援方法の大まかな内容を理解して、後日改めて市役所の窓口で白杖訓練や日常生活用具等を申請するという方もいます。毎月、行き慣れた市役所で相談会が開催されていることがとても生きています。「見えない、見えにくくて困っている



↑音声図書を読むための「プレクストーク」を紹介。機器の操作練習も視覚障害リハビリテーションの一つ。視覚に障害があっても情報が受け取れる社会環境が求められます

ことがあれば、まず市役所に来て欲しい。相談場所があることを知ってもらいたい」と堀江職員は語ります。

富士宮市役所は、市の広報誌「広報ふじのみや」に情報掲載するほか、市内の眼科医へ案内を送ったり、町内の回覧版で周知をお願いしたりと、地域のネットワークをフル活用してきめ細かな情報提供を続けています。すぐには必要なくても、視力低下や状況変化に伴って数年後に歩行訓練^{*}などを希望される場合もあるため、地道に長く、いつでも安心して相談や支援ができる地域支援の継続を目指しています。



↑富士ハーネスでの歩行訓練。その人に合った白杖を選ぶところからはじまり、白杖の持ち方の練習ほか、周囲の環境や地図と併せて安全に移動する方法を一緒に考えていきます

歩行訓練とは？

白杖の使い方や、見えにくい状態でも周囲の音や足元の感覚等を活用して安全に目的地に行くための訓練です。

視覚特別支援学校と連携 子どもたちの未来を支援

視覚特別支援学校には見えない、見えにくいことによって生じる学習や生活上の不便さを補うための自立活動とよばれる授業があり、個々に必要な内容が選択されます。堀江職員は、自立活動の講師として依頼のあった学校を定期的に訪問し、学校内の移動、白杖の使い方、電車やバスの乗り方まで歩行訓練を指導しています。見えない、見えにくい子供たちにとって安全な「移動」は、現在も将来も

社会で活動していくために欠かせないものです。卒業して別の学校に通ったり、就職したり、買い物に行ったり、好きなラーメンを食べに寄り道したり……。「安全な移動ができれば、その先で出会う人たちとの関わりのなかでコミュニケーション力も育まれ、人生はより豊かなものになるはず」と堀江職員。

活字の案内やバスの行き先表示、商品の文字情報など、見えにくい時に周囲の人にどのように聞いたら良いのか。新しい学校で学びを深めたり、就職先で能力を発揮して働きやすくするために、どんな配慮をお願いすれば良いのか。「子供たちには、障害のある人もない人も、社会の一員として一緒に活躍していく将来へ向け、たくさん学んで体験して欲しいことがあります」と語る堀江職員の活動は既に10年目。幼少期から高等部になるまでの子供たちの成長にずっと寄り添ってきました。学校の先生と連携しながら、社会へ飛び立つ子供たちを支えています。

富士宮市とますます連携を深める富士ハーネス・堀江職員の奮闘は、これからも続きます。

東京2020パラリンピック 聖火ランナーや閉会式で

聖火ランナー

新型コロナ感染拡大の影響で、聖火リレーは公道での走行が中止に。選出されていたランナーは点火セレモニーに参加しました

- ① 走行日
- ② 走行場所



櫻井 洋子さん & トリトン

- ① 8月19日
- ② 埼玉県朝霞市 朝霞中央公園 陸上競技場

鍼灸マッサージ師として働きながら、劇団に所属し女優としても活躍する櫻井さん。「支援者への感謝の思いと、障害をもつ仲間へエールを贈りたい!」と応募しました。開催が1年延期となり賛否両論がある中、ひたすらコロナに感染しないよう、感染させないよう、

最大限ケアに努めたそう。不安ときめきが入り交じる中で迎えた当日、一歩また一歩と歩を進める度にうれしさがこみ上げて感激もひとしお、笑顔がこぼれました。「トリトンは盲導犬となって1年目の若葉マーク、でも臆せず堂々とサポートしてくれました。多くの方に感謝しています」

閉会式 今村 法子さん & イーサン [大会ボランティア]

9月5日の閉会式でボランティアの表彰があり、代表で今村さんとイーサンが壇上へ上がりました。今村さんにとって、一生に一度の経験となるボランティア参加は人生の大きな目標でした。会場ではボランティアの受付サポートや、不足物資の届け役などを担い、イーサンは初めて行く場所でもいつ



も通り仕事をしてくれました。表彰代表に選ばれたときは「私でいいんですか?」とうれしい驚きでした。イーサンは壇上へ上がるときも暗い中しっかりと歩き、頼りになる存在でした。「イーサンは会場でも人気者で、一緒に参加できたのは一生の思い出です」

写真: Sports PressJP/アフロ

三宅 保子さん & エリン

- ① 8月22日
- ② 東京都分寺市 国分寺市新庁舎建設予定地



三宅さんは以前は消極的な性格で人前で話すことにも抵抗があったそうですが、盲導犬と歩くようになって話してみようと気が湧くように。「たくさんの方に盲導犬のことを知ってもらいたい」と学校や企業などで講演をしています。聖火ランナーは宝くじを買う気持ちで応募。選ばれて驚いたそうです。「大切な役割なので、エリンと一緒に走る練習をしました。私たちの姿を見て、盲導犬が街中を歩くのが自然な社会になってくれたら」。点火式では「聖火だけでなく、関わったすべての人たちの思いも一緒につないでいるんだという大きな感動がありました」

中澤 隆さん & デネブ

- ① 8月23日
- ② 東京都世田谷区 都立砧公園ねむのき広場



中澤さんはパラトライアスロン選手として活躍するアスリートで、何でもやってみよう、挑戦しようという気持ちが原動力だと言います。JTU(日本トライアスロン連合)からの推薦を受け、聖火ランナーに。パラリンピックに関わったうれしさ、会場スタッフへの感謝とともに「来年1月で引退するデネブとの良い思い出になった」と、トレーニングへ通うときもいつも一緒だったデネブへの思いを語りました。トライアスロンより過酷なアイアンマンレースへの参加を目標に掲げるアスリート魂は、今後も燃え続けそうです。

活躍したみなさんをご紹介します!

閉会式 小汐 唯菜さん [出演者]

パラリンピック閉会式で伸びやかな歌声を披露して、世界中の注目を集めた小汐さん。小学校1年生の時から協会主催の「ワン!ばくっ子サマースクール」に参加、その後、短期視覚障害リハビリテーションにも参加していました。現在は筑波大学附属視覚特別支援学校高等部音楽科2年生、閉会式に歌手として応募して、見事選ばれたのです。

大きな舞台上で歌える喜びに加え、共演したみなさんから歌のアドバイスをもらい、感謝の気持ちいっぱい当日を迎えました。世界の大舞台を前に「ほとんど緊張はなかった」という小汐さん、「笑顔で歌うことが大切」その思いで舞台上に立ちました。澄んだ歌声が世界中の人々の胸を震わせ、話題をさらいました。小汐さんが子供の頃、協会の催事で一緒にカヌーに乗ったり、仙台七夕まつりを散策してその成長を見守ってきた協会職員も、晴れ舞台を特別な思いで見つめていました。

小汐さんは「今後は演奏活動をしながら子供たちへ向けた教育に力を注いでいきたい」と夢を膨らませ、そのために、来年タイへ学びに行く計画です。世界へ羽ばたく眩い姿に心からエールを送ります。



↑演奏者や手話通訳者らと共に閉会式の舞台上に上がった小汐さん(右)澄んだ声で「この素晴らしい世界」を歌いあげ人々の心に印象を残しました 写真: 新華社/アフロ

盲導犬同伴の海外パラリンピアン 入国や滞在中の活動を協会が全面サポート

8月24日のパラリンピック開幕に先立ち、カナダから1人、イスラエルから3人の選手が盲導犬を伴って来日しました。日本と海外では、盲導犬をめぐる法律や考え方の違いがあります。海外の盲導犬ユーザーが来日したときにスムーズな入国と滞在中の自由な活動ができるよう、協会はさまざまなサポートを行っています。

IGDF(International Guide Dog Federation: 国際盲導犬連盟)加盟の育成団体間では、所属ユーザーが海外渡航する際、渡航情報や訓練記録を渡航先に提供し、滞在中でのサポートを依頼します。日本の場合、身体障害者補助犬法により「盲導犬使用者証」の携帯と提示が義務づけられているため、来日するユーザーに協会から「海外補助犬使用者期間限定証明書」を発行します。

通常は協会の訓練士がユーザー入国時に空港で盲導犬との歩行を確認したり、日本の法律などを口頭で説明したりします。しかし、コロナ禍のため今回はオンラインで実施しました。選手がストレスなく盲導犬と行動し競技に集中できるよう、心を込めてサポートを行いました。



↑開会式で盲導犬と一緒に堂々と歩くイスラエル選手の姿がメディアで取り上げられ、話題になりました



←カナダからはボートの混合舵手つきフォア競技のヴィクトリア・ノーラン選手が来日。協会訓練士との事前オンライン打ち合わせで、自身の盲導犬について「遠征を多く経験しているため、どこにいても動じない落ち着いた性格のパートナー」と話してくれました



スタートライン Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2021年9月までの共同訓練卒業生

●各ユーザーの紹介項目

ユーザー名・所在地(盲導犬歴)
盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種

- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名

●犬種記号

LR: ラブラドル・レトリバー
GR: ゴールデン・レトリバー



島根あさひ訓練センター

やんちゃ盛りの息子と元気いっぱいの盲導犬 両手にかかえてパワフルお母さんは大忙し

弓場さんは布団から起き上がると、家族やオリビアの食事の支度、息子の朔君の学校へ行く準備

に、オリビアと出かける用意で朝からてんてこ舞い。やっと終わって玄関から一緒に「いってきます！」朔君は学校へ、弓場さんはオリビアを連れて散歩です。家の周辺は住宅街、狭い歩道で子供たちの集団と遭遇しないように、朔君とは途中で別れて広い国道へ。歩くのが大好きな弓場さんにとって朝の散歩は一日の始まり、リフレッシュタイムです。散歩から家に帰ってくると「今日も一日頑張るぞ！」と自宅の鍼治療院を開けて仕事モードに切り替えます。

共同訓練では訓練士に「たくさん歩くので覚悟して」と言われるのですが、「歩けない方がストレス」と。弓場さんは他の人が2周するコースを3周してしまうくらい、歩くのが好きで体力もありました。オリビアと風を切って歩けたとき、ここ1、2年のストレスが解消されていくようでした。

しかし、交通量の多い場所での訓練で訓練士から「一人でオリビアと歩いてみて」と言われ、緊張して車との距離が分からなくなるときも。交差点よりもずっと手前で止まっていた弓場さん。1mと思った車との距離が実は3mあったと、後ろから見守る訓練士に言われ、驚いたそうです。

そんなときは深呼吸をして一旦気持ちを落ち着かせ、オリビアにも「もうちょっと練習しないといかんね」と声をかけます。失敗を次に生かすため、翌週には触地図(写真)を使って一つひとつの動作や犬への指示を訓練士と確認しました。

無邪気で子供のような性格のオリビア。好奇心旺盛で弓場さんが「あれ？」と思うときは他の動物に興味を示していて、そんなときは「シット」と声をかけて弓場さんに意識を戻すように。「私もオリビアも発展途上、少しずつ仲を深めていきたいですね」



弓場 美香さん
広島県呉市(1頭目)
オリビア(♀)LR
①2021.6.8 ~ 7.7
②増澤 顕太郎さん

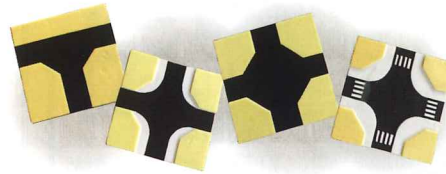
↑無邪気で子供のような性格のオリビア。好奇心旺盛で弓場さんが「あれ？」と思うときは他の動物に興味を示していて、そんなときは「シット」と声をかけて弓場さんに意識を戻すように。「私もオリビアも発展途上、少しずつ仲を深めていきたいですね」

神奈川訓練センター

田島 あづさん
埼玉県行田市(1頭目)
スズ(♀)LR
①2021.6.7 ~ 7.7
②竹内 利春さん

盲導犬デビューしたのは梅雨時で、水たまりがあるとスポットが立ち止まってしまう一苦勞。最近うまく迂回してくれますが、時々飛び越したり、ジャブッと入ったり……。愛嬌があり人懐っこいスポットですが、いたずらもするし「一緒に遊んで」とせがんだりもします。スポットのことを理解するのにどれだけの時間が必要なのかな。まだ3か月ですが、毎日新しい発見があって、これからは楽しみます。

↓交差点や段差、角などの情報を立体的に示した触地図。触って確認しながら実際の歩行をイメージします。訓練士が手づくりします



約1か月の訓練が終わり、家に連れて帰ったオリビアをみんなが温かく迎えてくれました。オリビアは人懐っこく、家族にもすぐ慣れました。一人っ子だった朔君にとっては兄弟が増えたようで、家の中を一緒に走り回っています。ちょうど体重も同じで、「お母さんになでてほしい」と頭を差し出してくるときは、弓場さんは両手を広げて朔君とオリビアを片手ずつ抱きしめ「グッド、グッド」。かわいい子供たちのおねだりです。「オリビア、お仕事をするときはずっと切り替えてね」。家では子供たちを見守る母、でも毎朝の散歩ではオリビアと歩行の反復練習をしてユニットのスキルを少しずつ上げていきます。山歩きが好きだったので、オリビアとも行けるようになるのが目標です。

↓毎月のシャンプーは広島事務所で。この日は家族みんなてオリビアをピカピカにして、オリビアも気持ちよさそう



夏場はまだ薄暗い早朝から散歩をしていましたが、スズは音に敏感なようで、自然の多い我が家周辺ではカエルの声や鯉の跳ねる音にビクッと歩みを止めることも。最近慣れてきて、のんびり楽しんで歩いています。家の中では私の後をついてまわり、ソファに座れば足の上に横になり、私の動きを阻止。コロナ禍が収束したら旅行もしたいし、気持ちの良い秋の日に、スズと一緒に市中をくまなく歩いてみたいです。

石原 清さん
東京都国立市(1頭目)
スポット(♂)LR
①2021.5.1 ~ 6.9
②野村 美枝子さん

ベトラは人が大好きでさみしがり屋さん。トイレや風呂に行くとき扉の前でしっぽを振って待っています。先日はなんと扇風機のスイッチを鼻で押して強風に！自分でやったのに寒くなってすぐ逃げだしました。いつも笑わせてくれるベトラ、会う人みんなに「いつも笑顔だね」と言われます。早朝の散歩では時に歌を歌いながら二人で楽しく歩きます。9月から小学校訪問が始まるので一緒に歩くのが楽しみです。

藤田 重男さん
神奈川県川崎市(3頭目)
ベトラ(♀)LR
①2021.6.21 ~ 7.2
②磯谷 いづるさん



※同行援護：視覚障害者が外出の際に必要な移動の援護や視覚的情報の支援(代読や代筆など)を受けられる福祉サービス

富士ハーネス

我が家は、夫と私の二人がユーザーとなるタンデム歩行です。朝は私、夕方は夫と歩くのが日課です。丸い頭と大きな耳、ふっくらとまるやかな体型のスペロ君、初めはまじめな青年か?と思いましたが、今では大いびきをかいて眠り、食事のときは、誰かの足の上に体を乗せるのがお気に入り。子供たちはいつか独立しますが、夫と私とスペロ君とハッピーリタイアを目指し健康で楽しく暮らしていきたいです。

**宮田 豊さん
正子さん**
愛知県刈谷市(5頭目)
スペロ(♂) LR
①2021.5.26~6.10
(正子さん)
2021.5.28~6.10
(豊さん)
②勢万 一哉さん



島根あさひ訓練センター



ちかから
**大川原
美樹さん**
京都市
(2頭目)
カルラ(♀) LR
①2021.6.14~6.28
②安井 千裕さん

カルラはとてもかわいらしい子で、上手に障害物を避けたりすると得意げに私の顔を見上げます。それがかわいくて寝るともって得意げにお仕事をしてくれます。家でも素直で天真爛漫な様子を見せてくれて、家族にもかわいがられています。特にお父さんと仲良しで、帰ってきた音がすると玄関へ猛ダッシュ! まだまだなところもあるけれど、一緒に経験を積んで補いあえるようなパートナーになりたいです。

「盲導犬訓練士を目指す人」を募集

私たちと一緒に働きながら訓練士を目指しませんか?

日本盲導犬協会では、持続可能な盲導犬育成事業を目指し、盲導犬訓練士の養成を進めています。

新たに2022年4月から協会職員となり、盲導犬訓練士を目指す人を募集します。神奈川訓練センターで働きながら、「訓練士養成学校」で学んでいただきます。協会理念を理解し、将来訓練士として視覚障害者福祉に寄与する高い志のある人材を求めます。



応募期間

2021年11月8日(月)~11月21日(日)

募集要項の詳細は、協会ホームページにて公開しています。応募をお待ちしています。



無理なく、続けられる
NATURALLY PLUS
ナチュラープラス®
The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラープラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL <http://www.naturally-plus.com>

intage
Know today. Power tomorrow

株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ <http://www.intage.co.jp/>
株式会社インテージ キューモニター募集 <https://www.cue-monitor.jp/>

未来を創る子供たちへ伝えたいこと

教育から共生社会を考える

協会では小中学生を対象に授業内での講演活動を続けてきました。with コロナの時代でも子供たちに学ぶ機会を提供したいと考え、オンライン授業、教科書への情報掲載に向けた取り組みがスタート。子供たちの教育、学びに力を注いでいます。

→富士ハーネスからのオンライン配信の様子。見えない、見えにくい人の日常の工夫について、具体例を挙げながら児童たちに伝えていく押野職員(右)と盲導犬バロン。触ってわかるオセロゲームを使って講演



全国から参加できるオンライン授業開講「全国一斉盲導犬教室」

「コロナ禍でも盲導犬について学ぶ機会を」という学校からの声に応え、小学校向けにオンライン「全国一斉盲導犬教室」を始めました。6月30日と7月6日の2回開催して、全国41校、2,478人の児童が参加。盲導犬ユーザーでもある協会の押野まゆ職員ほか、広報・コミュニケーション部の職員が、富士ハーネスからZoomを使って講演を行いました。

前半の盲導犬デモンストレーションで職員とPR犬の息の合った様子を見た児童たちは「グッドと言われる度に犬が尻尾を振って楽しそう」「盲導犬が信号の色を見分けられないと初めて知った。ユーザーに信号の色を教えてあげたい」。

後半は押野職員が「私には編み物やカラオケ、ボルダリング、ゲームなど趣味がたくさんある。色や柄を判別できるスマホの読み上げアプリを使って自身の手作りマスクと盲導犬バロンの服をおそろいの柄にしていることを紹介。「行きつけのカラオケ店はトイレ近くの部屋を用意してくれるので迷わなくて助かる」という話が子供たちには響いたようで、ちょっとした配慮の大切さに気づいたという感想文が数多く届きました。

理解を深めるきっかけに

参加小学校教職員へのアンケートでは「子供たちが今後、街中で目が見えない、見えにくい人に出会った時に声をかけてみようと思える内容でしたか?」という問いに約85%が「そう思う」と回答。「福祉への意識高まった」「相手の立場で考える大切さ感じたよう」「地域で盲導犬ユーザーに出会う機会がないので今後も継続開催を」「参加できる学校数を増やして欲しい」などの声が多数ありました。オンライン「全国一斉盲導犬教室」が新しい理解促進の場となるよう、これからも取り組んでいきます。

学びの基本「教科書」で理解浸透を

盲導犬や視覚障害について教科書への掲載を検討してもらうため、関連出版社へ向けた説明会を4月から9回開催、編集担当者など112人の参加がありました。基礎知識だけでなく、見えない、見えにくい人がごく当たり前活動する社会になるために必要な考え方も提示しました。長期的視野で「教科書プロジェクト」を進めていきます。



小学校で協会のオンライン授業を受ける児童たちの様子
◆岩見沢市立志文小学校 5年生 42人参加(北海道)
➡日南市立鶴戸小学校 3・4年生 7人参加(宮崎県)



未来の社会を担う子供たちが盲導犬や視覚障害者の存在をより身近に感じ、また理解を深めるきっかけとなるよう、今後も教育分野へ向けた普及活動に取り組んでいきます。

盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

ボランティア活動は“命のリレー” 誕生から旅立ちまで たくさんの方が愛情を注いで

神奈川訓練センター
キャリアチェンジ犬飼育ボランティア ●中島さん一家●(横浜市)

“今を生きる”1頭目の ウェーブから学んだこと

中島さん一家はパピーウォーカーとして5頭、その後キャリアチェンジ犬1頭、引退犬1頭の飼育ボランティアとして16年にわたって活動し、現在はキャリアチェンジ犬のルイと一緒に生活しています。

長女のひなのさんが「犬を飼いたい」と言ったことがボランティアを始めたきっかけです。母親の三枝さんは「可愛がるのは最初だけでは？」という懸念もあり、「何か良い方法はないか」と考えていました。そんな時に新聞記事で初めてパピーウォーカーの存在を知ります。1年間だけ子犬を育てる、三枝さんは直感的に「これだ」と思いました。当初、ひなのさんは1年で犬と別れることを嫌がっていましたが、三枝さんは「豊かな時代、あえて失う経験もさせたい」と考えていました。1年後、ひなのさんが「それで良いから犬を飼いた



↑2012年、夫婦と娘2人の4人家族に、ウェーブ(中央)、ルイ(右端)、猫のパニラ。かつてパピーウォーカーとして育てたウェーブを、引退犬として再び我が家に迎えて。今年1月に、ウェーブは旅立ちました

い」としびれを切らしたのを機に、ボランティアの申し込みをしました。

初めて中島家へやってきたウェーブ。娘たちも一生懸命に世話をしました。「昨日でも、明日でもない、今を生きる。どんな時も変わら

ずに」。1年後のウェーブとの別れを身近に感じることで、価値観が変わりました。

引退犬となったウェーブを中島さん一家が再び迎えようとした時、家にはルイがいました。2頭同



↑会場に展示されたたくさんのメッセージ。「家族になってくれてありがとう」「たくさんの思い出とともに心の中で生きていますよ」などユーザーやボランティアから犬たちへの愛情や感謝の思いがあふれていました

「盲導犬 慰霊の日」開催

9月4日、神奈川・仙台・富士の各訓練センターおよび広島事務所にて「盲導犬慰霊の日」を開催しました。亡くなった犬たちの旅立ちを見送り、関わったボランティアのみなさんへ感謝の気持ちを伝えるための場です。51頭を偲んで、神奈川訓練センターには53人のユーザーやボランティアが参加しました。密にならないよう事前に参加者の来館時間を定め、参加者の進む動線を一方に限定するなどのコロナ対策を行い、1家族ずつ遺影に

花を手向けてもらいました。2019年までは毎年9月に200人以上が参列して「慰霊式典」を行っていたのですが、コロナ感染拡大防止のため2020年からはこうした式典を見合わせています。

今年は新しい試みとして、より多くの人に「ありがとう」の気持ちが届くことを願い、富士ハーネスにて「盲導犬慰霊の日」の様子を撮影。協会公式YouTubeにて公開しています。



時に面倒をみる事ができるのか、葛藤もありました。しかし「できない言い訳を考えるよりも“今できる精一杯のことをやる”」と決心して、ウェーブを引き取ったのです。時を重ねるにつれて、より一層シンプルに真っすぐ生き抜く姿を見せたウェーブは今年1月、16歳1か月で亡くなりました。三枝さんは“今を生きる力強さ”を感じたと言います。娘二人にとってウェーブは「今でもかわいい存在です」

犬のように優しく前向きな姿勢で“何が大切か”を軸にシンプルに生きていと三枝さん。「ボランティアに関わらず、すべての生き物は限られた時間の中で生きている。“今を生きる”ことを大切にしたいです」

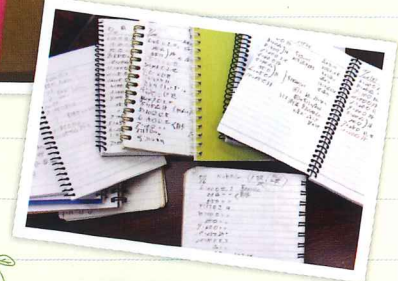
ボランティアだからこそ 参加できた「命のリレー」

ボランティアとして過ごした16年間は「ただただ無我夢中でした。犬からもらう“かわいい”“楽しい”があったから、あっという間でした」。かつて、子犬だったウェーブを迎え入れたとき、繁殖犬ボランティアから、ウェーブの産まれた時、それまでの出来ごと、性格や食べ物、



←2005年、パピーウォーカーとして初めてウェーブを預かった当時は長女ひなのさん8歳、次女あおいさん5歳。今は二人とも成人しました

↓パピーウォーカーになったばかりの頃は排泄の練習に苦労したそうで、いつウェーブが排泄したか、家族全員で日誌をつけるように。2頭目のビルボ以降も書き続け、今では数10冊に及びます



ウェーブへの思いなどが記された手紙をもらいました。手紙を読んで「これはとんでもなく責任重大だ」と感じました。「多くの人が一頭の犬に携わり、それぞれが目いっぱい愛情を注ぐ。まるで命のリレーのようです。ボランティアを含め、盲導犬の育成に関わる人はそのバトンを託されているのです」

これまで、協会からの依頼で短期間に預かった犬も含め実に27頭。犬を預かったことをきっかけに「心温まる手紙や写真をもらったり、お付き合いが始まったりと、素敵な出会い

に恵まれました」。たくさんの同士の味方がいることも心の支えになり「命のリレーの輪が広がり、ボランティアを続けることができました」

へットとして犬と関わることで決して得られなかったであろう、こうした経験を振り返り「これからも一日一日を大切に過ごしたい」と三枝さんは語ります。



←1週間ほど入院していたキャリアチェンジ犬のルイ。ルイの散歩に行かなくなった三枝さんは運動不足になり、心身ともルイに支えられていたのだと実感しました



飼育ボランティアとしてウェーブと オヒナの慰霊に参加した中島さん

↑「寂しいけれど、愛情が詰まった素敵な空間ですね」。三枝さんは遺影の前で合掌して「知っている犬も多く、親戚がいなくなるようで寂しいけれど、すべての犬がそれぞれの場所で役割を果たしたと思います」



↓ウェーブ(左)の遺影の隣に、オヒナ(右)が。オヒナは13歳7か月で亡くなりました。「楽しかったよ、ありがとう」と三枝さん

盲導犬として活躍したウェーブへ パートナーだった押野職員から

「はじめての盲導犬。はじめての就職。はじめての一人暮らしにはじめての旅行。全部うーたん(ウェーブ)と一緒にした(会場展示メッセージより)。引退が決まってから、押野まゆ職員は思い立ってウェーブと1泊2日の旅行へ。以来、パートナーと毎年はじめての場所へ旅することが恒例行事になりました。「ウェーブとは最後の思い出となってしまったけれど、人生をより楽しむ、新たな挑戦のスタートになりました」

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介し

新しい生活様式でも盲導犬ユーザーの「いってきます！」を後押しする社会へ



◀日本スーパーマーケット協会主催「お客様対応検討会」でのオンライン講演。盲導犬ユーザーが商品を手にとって触れ、店員が特徴や値段を口頭で説明する様子を、ロールプレイングで披露しました

団法人日本スーパーマーケット協会の協力で、加盟企業向けに講演する機会を得ました。6月2日、17社より25人の担当者

になります。

事業者側もこうした情勢に対応しようとして模索しています。協会は毎年さまざまな企業の新人研修を行っていますが、今年4月8日には神奈川トヨタ自動車株式会社による新人タクシードライバー対象「ユニバーサルエスコートマナー講習」に協力。「車両の中からの声かけではドアの場所が分からないんです」とのユーザーの言葉は説得力をもって響きます。協会からも「タクシーは重要な移動手段。一人ひとりの対応がユーザーの社会参加を支えます」。

6月18日には、Jリーグの浦和レッドダイヤモンズ株式会社の職員へ向けてセミナーを実施。スポーツや音楽、芸術などの分野でも円滑な受け入れが必須となってきています。withコロナの時代、盲導犬ユーザーの「いってきます！」を後押しできるよう、協会は事業者のみなさんへのサポートをより一層強化していきます。



↑Jリーグ浦和レッドダイヤモンズ及び埼玉スタジアム職員向けの接客セミナー。実習では参加職員が「右側にきれいな緑色のピッチが見えます」など声をかけ、ユーザーが雰囲気を楽しめるようなプラスアルファの配慮が光っていました（写真：©URAWA REDS）

● 感染予防で手いっぱい ～スーパーマーケットの悩み

2021年3月、新型コロナウイルスの感染予防を理由にした受け入れ拒否の発生状況を調査したところ、あるユーザーから「いつも誘導の対応をしてくれていたスーパーマーケットで、『今後は事前に電話をしてお店の都合の良い時間に来て欲しい』と言われてしまった」と相談がありました。コロナ感染予防が大変で手が回らなかったり、混雑具合が変わったりしたことが理由のようです。

法律上、店はいつ盲導犬ユーザーが来店してもサポートを提供するよう努めなければなりません。しかし、社会情勢やお店の事情を考えると、法律を説明するだけでは根本的な解決にはつながりません。スーパーマーケット業界全体との対話が必要と考えました。

● コロナで買い物が困難に ～ユーザーの困りごと

買い物の困りごとへの対応を模索する中、80社以上が加盟する一般社

が参加してオンライン講演を実施。ロールプレイングで店内誘導の方法、商品説明ほかサポートの必要性を丁寧に解説しました。盲導犬は売り場までの誘導はしないため店内ではスタッフの誘導が必要、視覚障害者にはどこにどの商品が置いてあるかを確認するのが難しく、購入商品も手で触って確かめておかないと後で分からなくなる、などです。事後アンケートでは「参考になった」が100%。こうした講演をきっかけに「コロナ禍でも他の人と同じように気軽に楽しく買い物したい」というユーザーの思いが叶う社会になればと考えます。

● 協会がつなぐ “ユーザー”と“企業”

今年5月、障害者差別解消法の改正によって、3年以内に「民間事業者の合理的配慮の提供が義務になる」という国の大きな指針が示されました。盲導犬の受け入れ、店内誘導や商品説明も合理的配慮の対象

生まれました



2021.6/26 誕生

オス6頭
メス3頭
父犬ウイングダム(LR)×
母犬ジェルム(LR)

2021.9/2 誕生

オス5頭
メス1頭
父犬ドミノ(GR)×
母犬ロザンナ(GR)

みなさんに 支えられて

6月11日～9月10日

犬種記号

LR/ラブラドル・レトリバー
GR/ゴールデン・レトリバー
GS/ジャーマン・シェパード



2021.8/20 誕生

オス6頭
メス1頭
父犬デクスター(GR)×
母犬バーニー(GR)

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ニコル♀	大川原 美樹さん	小郷 孝之さん	2021.6.14
レスカ♀	仲佐 艶子さん	仲佐 理恵さん	2021.6.16
スワニー♀	藤田 重男さん	—	2021.7.2
フォース♂	石崎 慎治さん	調整中	2021.8.27
ダイヤ♀	浅野 千鶴子さん	—	2021.9.6

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
キルト♀	下田 みどりさん	下田 誠さん	2021.6.14
メアリー♀	繁殖引退犬	三浦 義明さん	2021.7.13
ニット♀	繁殖犬	山本 尚志さん	2021.7.17
エフィ♂	坂田 清さん	田畑 智仁さん	2021.7.30
ティティ♀	南野 恵子さん	赤石沢 恭二さん	2021.8.2
ユーノス♂	渡邊 到さん	—	2021.8.19
イロハ♂	川嶋 友子さん	小松 勲さん	2021.8.29
サニー♂	石津 峰夫さん	藤村 誠さん	2021.9.10

委託しました

父犬ワオン(LR)×母犬シェリー(LR)	父犬カーロ(LR)×母犬エミール(LR)
ユニゾン♂ 栗原 延貴さん	アンジュ♀ 池田 司さん
父犬ウイングダム(LR)×母犬ジェルム(LR)	アリア♀ 松本 奈美さん
ダイム♂ 若林 聡さん	アシュリー♀ 勢万 一哉さん
ドン♂ 東 晴美さん	アンディ♂ 野村 美枝子さん
ディミー♀ 秦 正樹さん	父犬ユオン(LR)×母犬キアラ(LR)
ディオネ♀ 和仁 信之さん	コパン♂ 川北 武範さん
ダッシュ♂ 小澤 久美さん	ココ♀ 森永 和加子さん
ドルチェ♀ 安藤 洋介さん	クレバー♂ 大竹 智馨子さん
父犬エドウィン(GS)×母犬クサンティ(GS)	シャルレル♂ 加瀬 香奈子さん
アーディー♀ 若松 乙五郎さん	父犬グリーン(北海道盲)(LR)×母犬イト(北海道盲)(LR)
アキヤ♀ 戸田 祐二さん	ベイリー♂ 剣持 勝さん

盲導犬育成状況

合計頭数…687頭(2021年9月22日現在)

委託前パビー	12頭	繁殖犬	47頭
パビー	54頭	PR犬	22頭
訓練犬	69頭	引退犬	170頭
盲導犬	254頭	繁殖引退犬	59頭

一般社団法人日本自動車販売協会連合会
JAPAN AUTOMOBILE DEALERS ASSOCIATION

自販連では、公益信託自販連盲導犬育成基金を設立し、全国の目の不自由な方々に、盲導犬貸与の助成事業を行っております。



〒105-8530 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館15階
TEL : 03-5733-3105

みなさんからいただいた「声」を紹介する

ハーネスひろば

協会のご支援者や
ボランティアの方から
届いたメッセージを紹介します



盲 導犬くらぶ』を楽しく拝見させていただいています！我が家でもポメラニアンの子のミヒャエラを13歳まで飼っていましたが、去年の7月12日に天国に旅立ちました。また犬を飼いたいですが、母も高齢で私もパート収入で生活をしているので飼えなくてつらいです。未だにミヒャエラのことを思い出し、ペットロスになっています。また生活の先行きにゆとりができれば犬を飼いたいです。また盲導犬の支援を通して犬を飼っている気分です！私もいずれ盲導犬のボランティアができればうれしいです！コロナが蔓延しているので、みなさんも私もですが体に気をつけてゆっくり頑張りましょうね。

東京都杉並区 たけちゃんさんより

先 日、オリンピックの開会式をテレビで見っていた時、幾人かの聖火ランナーの走る姿の中に、盲導犬のイクション君が大きめに映りました。私は感動の気持ちが一気にこみあげてきました。イクション君が、相棒の水口さんと一緒に、日本の代表として、世界の一員として走っていると思ったら、思わず感極まってしまいました。オリンピックにはあまり興味をもっていなかったのですが、イクション君の伴走する姿を見た時、オリンピックとは、皆が協力して聖火をつなぎ、世界平和のもと、世界中のアスリートがスポーツで競い合うものだとこのことを思い出しました。イクション君のおかげです。前号の『盲導犬くらぶ』を開いてみると、聖火ランナーと相棒の盲導犬ペアが4組もいました。もちろんその中にイクション君がいました。イクション君の引退までの水口さんとの安定した生活と、引退後の穏やかな生活を、私は心から望みます。そして、これからも盲導犬たちのことが、テレビや報道で広く知られるように、私も応援していきます。

神奈川県 伏見佳子さんより



表紙への思い

表紙にイラストを採用したのは、31年の会報誌の歴史で初めてのことです。多くの方より一層の関心をもっていただこうと、挑戦してみました。コロナ禍で視覚障害者がどんなことに困っているのか？それを解消するのにどんなサポートが必要なのか？わかりやすくイラストで表現しています。「どのように声かけをしたら？」…難しく考える必要はありません。方法にこだわらず、目の見えない、見えにくい人が困っている様子を見かけたら、まずは気軽に話しかけてみてください。みなさんのちょっとしたひと言が安心につながります。

協会では公式YouTubeチャンネルでも声かけやサポートの方法について、動画でわかりやすく紹介しています。QRコードを読み取ってご視聴ください。



編集室より

株式会社セブン&アイ・ホールディングスでは、さまざまな社会貢献活動が行われ、その一環として株式会社そごう・西武では募金箱を設置し、お客さまに盲導犬育成事業への支援を募っています。7月より「盲導犬が足りていない現実を解決できるでしょうか？」と題した広告がテレビや新聞などで展開されています。そごう・西武の長きにわたる支援に恩返しができるればと、協会は広告撮影に協力を行いました。広告を通して、盲導犬の育成に対する理解がさらに広がることを願っています。

●『盲導犬くらぶ』の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net